SUPERBIKE EXPRESS--

EXtra, EXpert and EXtreme

ポールポジションを獲得した中須賀克行

JSB1000 All JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

QUALIFYING PRACTICE REPORT & INTERVIEW

ゼッケン1のプライドを見せた中須賀克行が Q1・Q2いずれのセッションも制してポールポジション! 復帰戦の秋吉耕佑は、まさかの転倒で左鎖骨を骨折!!

全日本ロードレース選手権は、今回の岡山ラウンドでシリーズ8戦目を迎え、いよいよシーズンも大詰めとなってきた。JSB1000クラスは、最終戦が2レース制となっているため、今回のレースを含め残り3戦でタイトルが決まる。

タイトル争いは、高橋巧が100ポイントを獲得しリード。これを6ポイント差で柳川明、13ポイント差で津田拓也、14ポイント差で中須賀克行が追っている状況だ。シリーズ序盤をリードした秋吉耕佑は、第4戦筑波で負傷し、2戦のノーポイントがありながら暫定ランキング5番手につけ、今回が復帰戦となっていたのだが、思わぬ落とし穴が待っていた。秋吉は、事前テストでは、初日でいきなりトップタイムをマーク。驚異的な回復具合を見せており、公式予選Q1でも2番手タイムを記録していたのだがリボルバーコーナーで転倒。左鎖骨を骨折してしまい残念ながら決勝は欠場を余儀なくされてしまう。また、暫定ランキング6番手につけている加賀山就臣も、昨年負傷した左ヒザを再手術したため今回は欠場となっており、代役として武田雄一が出場している。

そんなライバルを尻目に、Q1では、ただ一人1分28秒台をマーク。Q2でもトップタイムをマークし、タイトル防衛を目指す中須賀が今シーズン2回目のポールポジションを獲得した。

「事前テストでタイムが出なかったのですが、レースウイークで昨年のセットに戻したらいいフィーリングになりました。アベレージもいいですし、タイトルを防衛するためには、勝つしかないですからね。スタートを決めてレースをリードしたいと思っています」とディフェンディングチャンピオンの意地を見せた。

2番手には、0.015秒差で渡辺一樹が自己最高グリッドに着けた。「グリッドがよくても筑波のときみたいに序盤で下がってしまっては意味がないので、とにかく序盤で離されないようにトップグループの走りをしっかり見たいと思います」とコメント。今シーズンよりTEAM GREEN入りしJSB1000クラスを戦う渡辺だけに、今回の岡山ラウンドを最高のレースにしたいところだろう。

フロントロウ最後の3番手グリッドを確保したのがヨシムラの津田だ。Q1では、ピットイン・アウトを繰り返しセットアップを進め、Q2で一気にタイムアップした。「事前テストでは、いいフィーリングでは、なかったのですがレースウイークに入ってからよくなってきましたし、安定してきました。中須賀選手が速いので、まずは離されないようについていき、勝負は、10周目以降ですかね。まずはスタートで遅れないようにしたいですね」と仕上がりは上々のようだ。

4番手となった柳川だが、トップとの差は、0.079秒と僅か。事前テストから着々とセットアップを進めてきており、久しぶりに表彰台の中央に上がりたいところだ。「仕上がりは悪くないですね。レースは、24周あるので、どれだけ29秒台で踏ん張れるかがカギでしょう。スタートを決めて序盤はしっかりついていって、後半で勝負ですね」と我慢比べになると語る。

そしてポイントリーダーの高橋は、5番手とやや精細を欠いた。「タイヤチョイスで悩んでしまい、思うようにタイムを詰められませんでした。レースは、15時過ぎなので路面温度がどれくらいになっているのかが気になるところです」と、まだ不安要素が残っているようだが、決勝でスイッチが入ればトップ争いを繰り広げるはずだ。

6番手の山口辰也まで1分29秒台をマークし、武田が自己ベストの1分30秒334で7番手、満身創痍の藤田拓哉が8番手、清水郁己が9番手と続いた。

レースの主導権は、アベレージのいい中須賀が握りそうだ。中須賀のペースに何人ついていけるかによって、レース展開が決まってくるだろう。中須賀独走の可能性もあるが、逃げることができなければレース終盤まで数台のトップ争いとなるだろう。岡山国際サーキットのタイトな後半セクションで、バックマーカーをどうかわすかが勝敗を分けるかもしれない。

（佐藤寿宏）

予選2番手／渡辺一樹

予選3番手／津田拓也

JSB 1000 All Japan Road Race Championship

ポールポジション：1分29秒341
#1 中須賀 克行
ヤマハYSPレーシングチーム

『事前テストではタイムが全然出なくて、レースウイークに入ってからバイクの仕様を去年のセットに戻したら、一気にタイムが上がりアベレージもよくなりました。予選はQ1で1分28秒9を出すことができました。28秒台が出たのは（秋吉耕祐が）ここのコースレコードを出した年以来だと思います。ボクも、このときに28秒7が出ていますし。（Q1の最後に）Q2用のタイヤの皮むき中に転倒してしまい、その影響でQ2はタイムが伸び悩んで接戦になりましたが、ポールポジションを取ることができました。アベレージもいいですし、決勝に向けて非常にいい手応えと自信があります。前半戦でノーポイントのレースがあったので、チャンピオン争いには非常に厳しい状態ですが、自分に残されているのは優勝しかないので、残り3レースは全部、勝ちにこだわっていきたい。岡山は得意なサーキットですし、まずはここを勝って、最終戦に繋げたいと思います』

ST 600 All Japan Road Race Championship
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW

渡辺一馬が3戦連続のポールポジション!!「勝ちにこだわって、必ず勝つ!」

セッション開始早々に渡辺一馬が1分32秒906でトップに立ち、中冨伸一が33秒268、大崎誠之が33秒295で続く。その後伊藤勇樹が33秒070、稲垣誠が33秒209、國川浩道が33秒248と33秒台前半をマークしてモニター上位を塗り替えるが、渡辺のタイムをクリアすることはできない。

その渡辺は、6周目に32秒685と自己ベストを更新してトップをキープする。結局、その後もこのタイムを破るライダーは現れず、渡辺が今季4度目、3戦連続となるポールポジションを獲得した。

2番手は伊藤、3番手に稲垣、その後を國川、中冨、大崎と序盤にマークしたタイム順となって予選セッションは終了した。ポイントリーダーの横江竜司は33秒656で7番手、33秒761の岩崎哲朗、33秒785の小山知良と続く。

ポールポジション:1分32秒685
#6 渡辺一馬／KoharaRacing

『事前テストからタイムが伸びず、金曜の午後になってようやく、チームのおかげでいいセットが見つかり、一発のタイムもアベレージも上げることができました。金曜日は非公式ですが、レコードを更新できましたし、いい状態に仕上げることはできたのですが、予選でレコードタイムを更新できなかったのが悔しいですね。レコードが出せないようなコンディションではなかったので、場所取りをうまくできなかった自分のミスだと思います。でも安定して走れていて、決勝に向けては自信があるので3連勝できるように頑張ります。タイトルを意識しすぎて堅いレースはしたくないので、とにかく勝ちにいくレースがしたいですし、そうすれば結果はおのずとついてくるので、まず岡山で勝って、精神的に楽な状態で最終戦を迎えたいですね』

J-GP2 All JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW

激しい争いをデチャ・クライサーが制す!!「ベストを尽くして楽しくレースを走りたい」

J-GP2クラスの公式予選は、各時間帯で各ライダーがアタックを繰り広げ、目の離せないものとなった。序盤はデチャ・クライサーが1分33秒台から32秒824に上げてトップをキープ。長島哲太、高橋英倫、野左根航太、浦本修充と33秒台で続く。中盤に差し掛かる頃に野左根が32秒759でトップに立つが、長島が32秒455をマークしてこのセッション初めてのトップとなる。デチャは3番手で生形秀之が32秒940で続く。

セッション後半、デチャが32秒391でトップを奪い返すとさらに32秒215までタイムアップ。井筒仁康が32秒660で3番手、関口太郎も32秒799で5番手と次々とポジションを入れ替える激しい予選となった。終了間際には各車とも最後のアタック。最終周で野左根が32秒420までタイムアップ、2番手でセッションを終えた。ポールポジションはクラス初となるデチャが獲得した。

ポールポジション:1分32秒215
#30 デチャ・クライサー／Yamaha Thailand Racing Team

『金曜日の走行では、マシンが十分できあがっていなかったので、予選はどこまでいけるのか不安でしたが、走り出すと、その不安をぬぐい去ることができて、思い切りアタックすることができました。決勝でも、この流れをそのまま持ち込めると思っていますし、楽しくレースを走れると思います。スタートではホールショットを狙っていきたいですね。決勝でも努力して、勝てるように頑張ります。チャンピオンを取るのは不可能なので、残り2戦を楽しく、いい結果を出せるように、今回の岡山も、最終戦の鈴鹿も、ベストを尽くします』

J-GP3 All JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW

國峰啄磨がニューレコードでポールポジション!!「レースはぶっちぎりで勝ちたい」

快晴に恵まれた岡山国際サーキット。土曜日最初となるJ-GP3クラスの予選は序盤からランキング上位陣が激しくタイムとポジションを争った。賞典外参加の仲城英幸が37秒台でまずはトップに立つが、すぐに國峰啄磨が真っ先に1分36秒540と36秒台に入れトップを奪う。2番手にはこちらも36秒台に入れた仲城、続いて37秒台の山田誓己、山本剛大、鳥羽海渡、水野涼、そして大久保光が名を連ねる。

セッションの後半、すでに非公式ながらレコードタイムをブレイクしている國峰がアタックを開始。36秒242と自己ベストを更新すると、ついに36秒086をマーク、ニューレコードタイムを記録、今季3度目のポールポジションを獲得した。2番手にはチェッカー直前に36秒102をマークした大久保、3番手にはポイントリーダーの山田が入った。

ポールポジション:1分36秒086 R
#55 國峰啄磨／Project μ 7C HARC

『合同テストから調子がよく、セッティングも決まってトップタイムを出せていました。金曜日の走行でも1分35秒台に入れて（非公式で）レコードを更新するタイムでしたし、アベレージも35秒台でまわれる感触がありましたが、予選は気温に合わせたセッティングが、うまくいかず詰める前にトラブルが起きて時間がなくなってしまいました。テストで出せたタイムには届かなかったですが、とりあえずレコード更新してポールポジションも取れたのでよかったです。決勝は、できれば前半にスパートをかけて逃げたいですが、接戦になれば、その時点で作戦を考えます。開幕戦で転倒、2戦目も転倒してしまいチャンピオンは難しいので、残りのレースはレコード更新と勝利数を上げてアピールしていきたいです』

Photo by H.Wakita / Y.Harada©

MFJ Superbike Round8 **SUPERBIKE RACE in OKAYAMA** 28 - 29 September 2013 公式予選結果

JSB 1000

●予選：天候／晴　路面／ドライ　出走30台
●決勝スタート／15:20（24周）

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	1	中須賀 克行	ヤマハYSPレーシングチーム	YZF-R1	1'29.341
2	50	渡辺 一樹	TEAM GREEN	ZX-10R	1'29.356
3	12	津田 拓也	ヨシムラスズキレーシングチーム	GSX-R1000L3	1'29.391
4	87	柳川 明	TEAM GREEN	ZX-10R	1'29.420
5	634	高橋 巧	MuSASHiRTハルク・プロ	CBR1000RR	1'29.573
6	104	山口 辰也	TOHORacingwithMORIWAKI	CBR1000RR	1'29.838
7	71	武田 雄一	Team KAGAYAMA	GSX-R1000	1'30.334
8	33	藤田 拓哉	DOG FIGHT RACING・YAMAHA	YZF-R1	1'31.473
9	22	清水 郁巳	ホンダドリーム高崎B'WISER.T	CBR1000RR	1'31.873
10	4	秋吉 耕佑	F.C.C.TSR Honda	CBR1000RR	出走せず
------- 以上Q2にて決定 -------					
11	16	吉田 光弘	Honda熊本レーシング	CBR1000RR	1'31.999
12	23	原田 洋孝	RS-ガレージハラダ姫路	ZX-10R	1'32.660
13	76	小島 一浩	Honda熊本レーシング	CBR1000RR	1'33.052
14	35	田村 武士	テイクアップOIRF	GSX-R1000L2	1'33.268
15	32	寺本 幸司	MotoMap SUPPLY	GSX-R1000L3	1'33.275
16	54	中本 郡	リリカAMENA OUTRUN	GSX-R1000	1'33.641
17	21	久保山 正朗	Honda浜友会浜松エスカルゴ	CBR1000RR	1'33.764
18	63	片平 亮輔	8810Rwith松本クリニック	S1000RR	1'34.123
19	31	村上 雅彦	チームムラカミ&ウッドストック	ZX-10R	1'34.141
20	48	藤本 悦生	TeamFuji111☆L&R	GSX-R1000L2	1'34.436
21	770	水澤 保	山科カワサキKENRACING	ZX-10R	1'34.680
22	6	須貝 義行	チームスガイレーシングジャパン	1199Panigales	1'35.069
23	52	太田 達也	グリーンクラブ能塚&R.P.With	ZX-10R	1'35.096
24	99	吉田 和憲	救急救命戦隊licu rt	YZF-R1	1'35.359
25	55	山崎 茂	山科カワサキKENレーシング	ZX-10R	1'35.546
26	85	今津 比呂志	プラスワンMCRT&ソーラーいちばん	ZX-10R	1'35.762
27	74	北折 淳	Honda緑陽会熊本レーシング	CBR1000RR	1'36.943
28	78	藤枝 稔	バナナハンズ	YZF-R1	1'37.095
29	73	大橋 靖洋	Honda緑陽会熊本レーシング	CBR1000RR	1'37.606
------- 以上Q1にて決定 -------					
------- 以上予選通過 -------					
30	51	樋口 幸博	T・モトキッズ 獺RT	YZF-R1	1'38.506

予選通過基準タイム／公式予選Q1上位3台の平均タイムの110%　1'38.325
参加台数:30台　出走台数:30台

ST 600

●予選：天候／晴　路面／ドライ　出走39台
●決勝スタート／11:15（19周）

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	6	渡辺 一馬	KoharaRacing	CBR600RR	1'32.685
2	76	伊藤 勇樹	PETRONAS・HLYM	YZF-R6	1'33.070
3	9	稲垣 誠	AKENO SPEED・MIC	YZF-R6	1'33.209
4	16	國川 浩道	赤い3輪車レーシングチーム	CBR600RR	1'33.248
5	2	中冨 伸一	HiTMAN RC甲子園ヤマハ	YZF-R6	1'33.268
6	12	大崎 誠之	伊藤レーシングGMDスズカ	YZF-R6	1'33.295
7	11	横江 竜司	RT 森のくまさん佐藤塾	YZF-R6	1'33.656
8	14	岩崎 哲朗	RS-ITOH&ASIA	ZX-6R	1'33.761
9	71	小山 知良	CLUB PLUSONE with T.Pro	CBR600RR	1'33.785
10	45	高橋 颯	RS-ITOH&ASIA	ZX-6R	1'33.800
11	21	篠崎 佐助	SP忠男レーシングチーム	YZF-R6	1'34.001
12	23	近藤 湧也	GBSレーシング	YZF-R6	1'34.043
13	77	井筒 仁康	RS-ITOH&ASIA	ZX-6R	1'34.053
14	634	亀谷 長純	MuSASHiRTハルク・プロ	CBR600RR	1'34.162
15	55	渥美 心	テルル&EM★KoharaRT	CBR600RR	1'34.268
16	24	日浦 大治朗	HONDA鈴鹿レーシングチーム	CBR600RR	1'34.739
17	146	瀬崎 恭広	カメイレーシング&Teamまんだい	ZX-6R	1'34.788
18	83	宮嶋 佳毅	TOHO RACING CLUB	CBR600RR	1'34.887
19	18	中山 真太郎	TEAMしんたろうwithKRT	CBR600RR	1'34.965
20	57	奥野 翼	PITCREW&松戸FLASH	ZX-6R	1'35.035
21	50	松川 泰宏	MOTO BUM+SAI	CBR600RR	1'35.190
22	42	松本 正幸	Teamマーキュリー&モトスト	ZX-6R	1'35.672
23	53	長野 博	テイクアップ&SBSKIDANI	GSX-R600L2	1'35.801
24	30	豊田 浩史	D;REX	DAYTONA675R	1'35.932
25	34	矢田 栄一朗	レーシングチーム OutRun	YZF-R6	1'36.109
26	85	中西 豊	立秋モータース&RC 甲子園	YZF-R6	1'36.253
27	48	中本 貴也	SP忠男レーシングチーム	YZF-R6	1'36.368
28	78	久野 光博	YT企画&クラブフェニーチェ	YZF-R6	1'36.598
29	81	藤原 研斗	テイクアップ&ガレージ上月	YZF-R6	1'36.600
30	46	小倉 章太郎	HiTMAN RC甲子園ヤマハ	YZF-R6	1'36.621
31	91	高間 弘泰	STSクラブフェニーチェ京都	CBR600RR	1'36.645
32	147	定井 満	カメイレーシング ガレージA'	ZX-6R	1'36.883
33	31	長谷川 直樹	CONFIA&AS小笠原	GSX-R600	1'36.989
34	79	河端 清次	Team カワサキマーキュリー	ZX-6R	1'37.343
35	68	武田 誠	BEST auto	YZF-R6	1'37.351
36	82	田中 歩	AKENO SPEED・MIC	YZF-R6	1'37.755
37	88	宮脇 健二	Trip Trap&亀甲堂	YZF-R6	1'38.388
38	89	福島 正樹	ToyBoy&F&MMRT	CBR600RR	1'39.226
39	66	松本 尚樹	TEAM GENIUS	YZF-R6	1'39.278

------- 以上予選通過 -------
予選通過基準タイム（110%）1'41.954
参加台数:39台　出走台数:39台

J-GP2

●予選：天候／晴　路面／ドライ　出走20台
●決勝スタート／14:10（19周）

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	30	DECHA KRAISART	Yamaha Thailand Racing Team	YZF-R6	1'32.215
2	31	野左根 航汰	ウエビックチームノリックヤマハ	YZW-N6	1'32.420
3	45	長島 哲太	テルル&EM★KoharaRT	TSR2	1'32.448
4	77	井筒 仁康	RS-ITOH&ASIA	ZX-6R	1'32.588
5	2	生形 秀之	エスパルスドリームレーシング	MFD6	1'32.687
6	8	関口 太郎	MSK Team TARO PLUS ONE	YZF-R6	1'32.799
7	634	浦本 修充	MuSASHiRTハルク・プロ	HP6	1'32.844
8	51	高橋 英倫	PITCREW&松戸FLASH	MZX-6R	1'33.128
9	7	大木 崇行	MOTO BUM HONDA	CBR600RR	1'33.308
10	34	岩田 悟	CLUB PLUSONE	HP6	1'33.653
11	392	津田 一磨	ミクニ テリーアンドカリー	GSX-R600	1'33.945
12	11	星野 知也	SYNCEDGE 4413 Racing	CBR600RR HP6	1'34.210
13	22	佐藤 太紀	TEAM PLUSONE	TSR6	1'34.535
14	19	相馬 利胤	TT 45	MD600	1'34.936
15	52	HANGDAE CHO	PITCREW&TWOWHEEL KOREA	MZX-6R	1'36.330
16	810	大西 明	大阪SAMレーシング&Ys'F	SAM600RH4	1'36.716
17	15	小口 理	ALLMAN&OWRACING	YZF-OWR6	1'36.735
18	79	朝比奈 正	アサヒナレーシング	Z600	1'37.006
19	13	赤間 清	CLUB HARC-PRO	HP6	1'37.788
20	81	中尾 健治	R&Tサークル・YSP宇部	YZF-R6	1'38.146

------- 以上予選通過 -------
予選通過基準タイム（110%）1'41.437
参加台数:20台　出走台数:20台

J-GP3

●予選：天候／晴　路面／ドライ　出走41台
●決勝スタート／10:05（19周）

Pos	No.	Cls.	Name	Team	Machine	BestTime
1	55	Y	國峰 啄磨	Projectμ7C HARC	TSR3	R 1'36.086
2	78		大久保 光	HotRacing	NSF250R	R 1'36.102
3	3		山田 誓己	TEAM PLUSONE & ENDURANCE	NSF250R	1'36.574
	4		仲城 英幸※	IODARacing・7C	TR004 (Moto3)	1'36.736
4	5		山本 剛大	Team NOBBY	M312	1'37.035
5	88	Y	水野 涼	CLUB HARC-PRO.	NSF250R	1'37.217
6	67	Y	鳥羽 海渡	TEAM TEC2 & TDA	TEC2-12	1'37.349
7	25		小室 旭	テルル&EM★KoharaRT	NSF250R	1'37.591
8	9		菊池 寛幸	KoharaRacing	NSF250R	1'37.890
9	40	Y	中山 翔太	TEAM TECHNICA	NSF250R	1'38.120
10	93		赤澤 隆生	TEAM TEC2 & TDA	TEC2-12	1'38.299
11	32	Y	北見 剣	ウイダー チームアイファクトリー	NSF250R	1'38.312
12	22		安村 武志	犬の乳酸菌.jp/プリミティブRT	PRCS3	1'38.359
13	34	Y	関野 海斗	Projectμ7C HARC	NSF250R	1'38.394
14	29		澁田 晨央	ウイダー チームアイファクトリー	NSF250R	1'38.582
15	64	Y	伊達 悠太	犬の乳酸菌.JP/PRCS	NSF250R	1'38.657
16	33	Y	山元 聖	Projectμ7C HARC	NSF250R	1'38.756
17	14	Y	長尾 健吾	TEAMけんけんwithアポロ	NSF250R	1'38.762
18	21		大西 隼	Projectμ7C HARC	NSF250	1'38.823
19	26		高杉 奈緒子	モトバムwithヒポポタマス	NSF250R	1'38.837
20	37		石崎 司也	TEAM TEC2 & TDA	TEC2-12	1'38.893
21	41		宇井 陽一	41Planning.IODARacing Japan	IODA	1'39.035
22	24		古市 右京	TEAM ASPIRATION	NSF250R	1'39.044
23	72		岸田 慶一	EL de'cor&FLEX!!	NSF250R	1'39.265
24	31		岡崎 静夏	KoharaRacing	NSF250R	1'39.270
25	35	Y	吉広 光	CLUBNEXT&MOTOBUM	NSF250R	1'39.366
26	75		作本 輝介	Club PARIS RSC	NSF250R	1'39.545
27	60		川瀬 啓一郎	チームKOHSAKA&バックヤードガレージ	NSF250R	1'39.572
28	46	Y	岩戸 亮介	Club PARIS RSC	NSF250R	1'39.585
29	18		葛西 雅迪	タニシ&speed heart YERC	NSF250R	1'39.668
30	13	Y	佐野 優人	SRSJwithMORIWAKI	MD250GP3	1'39.688
31	38		山本 恭裕	広島カジタRacing&LRC	NSF250R	1'39.694
32	42	Y	大内田 拓	DOGFISHオーテックスズカ	NSF250R	1'39.720
33	85		村井 浩志	ZAPPER&YERC	NSF250R	1'39.892
34	28		三好 菜摘	オールスターモータースポーツ	NSF250R	1'40.482
35	54		田尻 克行	Club PARIS RSC	NSF250R	1'40.824
36	39	Y	佐野 勝人	SRSJwithMORIWAKI	MD250GP3	1'41.135
37	48		高木 伸一	TeamLifeドリーム北九州	NSF250R	1'41.142
38	43		畑中 要	FTR・タイヤナビ・遠藤住宅㈱	NSF250R	1'41.816
39	52		大塚 浩二	RISKY+広島高潤YERC	ACH250M	1'41.980
40	99		太田 一貴	PRIDE★1&JOKEJOY	NSF250R	1'42.381

------- 以上予選通過 -------
R印は、コースレコードを更新した。（従来のレコード:1'36.111）
区分:Y=Youth
※ゼッケンNo.4は、賞典外にて出走した。
予選通過基準タイム（J-GP3:110%）1'45.712（J-GP3Y:110%）1'45.695
参加台数:41台　出走台数:41台

INFORMATION

今年も全日本ロードレース完全無料放送!!

2013年シーズンも全日本ロードレース選手権はシリーズ全戦をレース開催8日後に「BS12　TwellV（トゥエルビ）」で完全無料放送されます。現場ではカバーできなかったシーンや迫力のバトルをあらためてお楽しみください!!

■放映スケジュール
第8戦岡山国際サーキット　10月6日（月）　20:00〜20:54

ますます充実するインターネット動画!!

USTREAM　コース監視カメラの映像と実況アナの音声で予選・決勝をライブ配信! スマフォ対応です。

YouTube　YouTube「MFJ SUPERBIKEオフィシャルチャンネル」では、予選・決勝直後のライダーインタビューを中心に、全日本ロードレースの迫力を動画にて配信!

MFJ Live CHANNEL　TV収録用高画質映像を決勝レース終了後約1時間後に配信!

詳しくはファンサイトで → http://superbike.jp/